

桃園小学校・向台小学校統合委員会 要点記録

第 3 回

開催日時	平成28年10月11日(火) 午後6時30分～7時55分	
開催場所	弥生区民活動センター洋室3, 4号	
出席者	委員	小平一位、川本豊、加藤洋右、高橋智人、神保亜理、越坂部干明、瀧本和江、木下克美、清水好博、岩本昌夫、奥愛、田中憲治、中村明子、川畑伊豆海、松井貴子、浅野昭、板垣淑子 (敬称略、順不同)
	その他	子ども教育施設担当、パシフィックコンサルタンツ株式会社
	事務局	学校再編担当
会議次第	【報告】 1 想定される児童数・学級数について 【議事】 1 統合新校の校舎(桃園小学校)の改築について 2 その他	

第3回 桃園小学校・向台小学校統合委員会 会議要旨

委員長

定刻となったため、これより第3回学校統合委員会を開会する。本日、傍聴者はいない。本日の統合委員会では、統合新校の校舎の改築に関係して、教育委員会の施設担当職員とコンサルタント会社の担当者が出席している。

それでは、本日は議事に入る前に、報告事項がある。まず、報告(1) 想定される児童数・学級数について、事務局の説明を求める。

1 報告

報告(1) 想定される児童数・学級数について

■資料「学級数の推計と普通教室数」事務局から説明

平成31年度、統合時の学級数は19学級の推計だが、1年生が100人超で推移しており、平成34年度には22学級になると推計されている。

35年度以降は、34年度の4年生120人超が推移していくため全学年が4学級となる可能性があることから、普通教室は24教室用意することを基本とする。

なお、1、2年生は1学級を35人で計算することから、それぞれ1学級余裕をもたせる。また、3～6年生に1学級余裕をもたせることとし、普通教室は全体で24教室に3教室を加えた27教室とする。

委員長

今説明のあった(1) 想定される児童数・学級数について、意見・質問等あるか。

委員

この地域は子どもの数が増えているということか。区全体ではどうか。

事務局

この地域は微増している。増えている地域とそうでない地域の両方があるが、区全体としても微増である。

委員長

他に意見等あるか。ないようであれば報告は終了する。続いて議事に入る。

2 議事

議事(1) 統合新校の校舎(桃園小学校)の改築について

委員長

それでは、議事(1)「統合新校の校舎(桃園小学校)の改築について」、事務局の説明を求める。

■資料「計画コンセプト 統合新校校舎等整備の基本的な考え方」前半部分について教育委員会事務局副参事(子ども教育施設担当)から説明

1. 統合新校改築にあたっての基本的な考え方

中野区では、主に以下の構想・計画等を踏まえ、統合新校の校舎等を整備していく。

○中野区基本構想 (平成28年3月改定)	○新しい中野をつくる10か年計画(第3次)
・安心して産み育てられるまち	・地域の育成活動等の充実と育成者支援 (小学校内へのキッズ・プラザの整備と学童クラブでの放課後のこどもたちの安全安心な活動拠点の整備)
・自ら学び可能性を拓く子どもが育つまち	・質の高い教育環境の整備 (学校再編による児童・生徒数や学級数の一定数確保と子ども同士の交流等、集団活動の良さを活かした活気あふれる学校運営) ・体力向上させる取組の推進 (休み時間・放課後の外遊びの推進やキッズ・プラザ、放課後子ども教室の取組、子どもの自発的な運動を誘発するための環境整備等、遊びを通じた体力づくりの推進) ・特別支援教育の推進 (特別支援教育の充実、全小中学校に特別支援教室の設置)
・学びと文化を創造・発信するまち	・学校と連携した読書活動の推進(地域開放型学校図書館の整備)

○中野区教育ビジョン(第2次)

- ・教育理念「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」

○中野区立小中学校再編計画(第2次)

- ・中野神明小学校、新山小学校の統合
- ・桃園小学校、向台小学校の統合
- ・大和小学校、若宮小学校の統合

○中野区立小中学校施設改築等整備の考え方(平成19年8月)

- ・学習空間としての学校
- ・生活空間としての学校
- ・健康・体力を増進する学校
- ・地域コミュニティ施設としての学校

○中野区小中学校施設整備計画(平成26年10月)

- ・多様な学習環境を可能にし、地域活動の拠点となる施設の整備
- ・効率的効果的な施設配置や施設設備の共同化
- ・今後の教育環境や社会状況の変化に対応できる学校施設
- ・快適で安全かつ安心な施設環境の確保

2. 統合新校の校舎等整備にあたっての視点

<教育機能>

(1) 高機能で多機能な学習環境をつくる。

- ・学級単位での学習のほか、チームティーチングによる学習、少人数指導、グループ学習等、多様な学習形態に対応できる施設をつくる。
- ・ICT（情報通信技術）の進展をふまえた整備や、図書室・コンピュータ室・多目的室のつながりを考慮し、「調べる」「学ぶ」「発表する」といった一連の学習が効果的に行えるような施設づくりを行う。
- ・統合新校の対象となる学校、それぞれの校風や児童の特性に留意し、既存校舎の記憶の歴史的継承を図る。
- ・児童が安心して気持ちよく過ごせる生活の場、体力づくりを進められるような充実した屋内運動場、プール、校庭の整備を図る。

(2) 特別支援学級・特別支援教室における特別支援教育の充実に資する施設をつくる。

(3) 今後の教育環境や社会状況に柔軟に対応できる施設整備や維持管理のしやすい環境をつくる。

<施設整備>

(4) 学校運営上支障のない範囲で実施する校庭、屋内運動場を中心とした学校開放を踏まえ、子どもから高齢者、障害のある人にも不自由なく利用できるユニバーサルデザインによる施設づくりを行う。

(5) 児童たちの環境教育の充実に図るとともに、ヒートアイランド現象等の環境問題に対応するため、施設の緑化などのほか、自然エネルギーを活用した省エネ・省資源型の施設づくりを行う。

<セキュリティ・防災>

(6) キッズ・プラザや地域開放型図書館等、学校運営と異なる管理主体を施設構成に含めることを想定した設計上の配慮を行う。

(7) 不審者の侵入防止など、十分な安全対策を講じるとともに、震災時の地域避難所としての活動を踏まえ、防災機能の充実、災害時の広域避難場所との連携や救援活動が円滑に行える施設づくりを行う。

<コスト>

(8) 学校に必要な機能等を定めた標準仕様を基本とし、できる限りコンパクトな施設として必要経費の縮減を図り、改築後の後年度負担（ライフサイクルコスト）の縮減を検討する。

事務局

今説明のあった「セキュリティ・防災」について、今後改築する小学校にはキッズ・プラザを設置するという方針があるが、加えて10月5日の厚生委員会の中で、キッズ・プラザの中に「子育てひろば」を導入する旨の報告があった。子育てひろばとは、乳幼児親子が過ごせるような場所を提供する事業で、現在は桃花小学校や緑野小学校など区内4つの小学校で似たような事業を始めている。今後はそれをきちんとした事業として位置づけて、子育てひろばを導入するという方針が示された。そのことも加味した形で今後の施設の設計等を行っていくことになる。

委員長

今説明のあった内容、また補足について意見・質問等あるか。

委員

後年度負担（ライフサイクルコスト）の縮減とはどういうことか。いわゆる保守・管理費であるランニングコストとは別か。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

後年度負担（ライフサイクルコスト）というのは、保守・管理費のランニングコストが主であるが、それと建設費（イニシャルコスト）と合わせたものである。また、最終的には、廃棄処分や整備の内容まで合わせたものという意味である。

委員

了解した。では、そのようなコストがどのぐらいになって、どうすれば全体の経費を抑えられるかということも考えていくのか

パシフィックコンサルタンツ株式会社

色々な面を検討し、後年度負担（ライフサイクルコスト）を全体として縮減していく。

委員

例えば、耐久性が鉄で10年、ステンレスで50年であれば初期の金額はステンレスが高くて後年度負担を考えるとステンレスを採用するとか、そのようなイメージか。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

そのとおりである。

委員

プールはぜひそのような考えを採用してほしい。

区担当

そういう検討も視野に入れて整備していく方針である。

委員

キッズ・プラザについて、先ほど子育てひろばが導入されるという説明があったが、この子育てひろばとは区民活動センターでやっている、「ピヨピヨひろば」と同じ内容か。区民活動センターで行っている事業を廃止して小学校で行うのか。

事務局

子育てひろば事業は小学校だけではなく、すこやか福祉センター等色々なところで展開をしていくことになっている。子育てひろば事業を区内各地に展開し、その一端として学校も使用しようという、そういう考え方である。

委員長

他に意見等あるか。ないようであれば、(1)の後半部分の説明に入る。コンサルタント業者から説明がある。

■資料「計画コンセプト 統合新校校舎等整備の基本的な考え方」後半部分、施設計画等についてパシフィックコンサルタント株式会社担当者から説明

1. 計画地の現状 桃園小学校の周辺区道の状況
2. 計画条件等

所在地	東京都中野区本町3丁目16番1号
敷地面積	10,026 m ²
前面道路	道路幅員 4.5m
用途地域	第一種中高層住居専用地域
防火指定	準防火
容積率	200%
建ぺい率	60%
許容延床面積	20,052 m ²
許容建築面積	6,015.6 m ²
高度地区	第二種高度地区
隣地斜線	20m 1.25
道路斜線	20m 1.25

3. 施設計画

イメージ1

- ・校舎配置 : ほぼ現在の校舎と同じ配置
- ・校庭の広さ : 150mトラック 直線 24m 6レーン、50m直線コース 6レーン
- ・入り口 : 児童用、開放用、搬入用の入り口は東側区道沿いで、3つの距離が近い配置

イメージ2

- ・校舎配置 : 東側区道沿いに南北にのびる校舎を配置
- ・校庭の広さ : 150mトラック 直線 24m 6レーン、50m直線コース 6レーン
- ・入り口 : 児童用、開放用、搬入用の入り口は東側区道沿いで、それぞれ離れて配置

委員長

施設計画等について説明があった。今回は施設内の機能について意見がほしいとのことである。質問・意見等あるか。

委員

イメージ1について、校舎棟が中廊下式の作りであるという説明があったが、そうすると北側の教室には太陽の光が入らないのではないか。また、先生方への質問だが、中廊下式は教室から反対側の別の教室が見える。それにより児童が落ち着かない等の問題はありますか。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

基本的に中廊下式の場合は、南側に普通教室、北側に特別教室や管理諸室を整備することを考えている。児童が長い時間を過ごす普通教室は日当たりを確保したい。

委員

集中力については特に問題ないように思う。

委員

8月に視察した練馬区立谷原小学校も中廊下式で、先ほどの説明と同じく南側に普通教室があり、北側に資料室や家庭科室があった。それで、真ん中にホールのような空間が確保できていた。

委員

校舎の配置案については本日出された2つの計画で、他にはないのか。4階建てになると近隣の方々の意見も心配である。また、前回も意見があったが、太陽の光がたくさん入る明るい校舎になるような設計にしてもらいたい。

中野区で一番古い140周年を迎えた桃園小学校と80周年を迎える向台小学校の両校の伝統を引き継いでほしい。桃園小学校で言えば、140周年の歴史の重みを感じるアオギリや桃の木を残していくことも考えてほしい。そのようなことを考えると、イメージ1の今の校舎の配置図に近い方が良いのではないかと思う。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

様々な校舎の配置案を考えたが、校庭を広くとることを考えると本日出した2つの計画が現実的であると思う。

委員

4階建てを考えているということだが、地下階は考えているのか。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

地下階を作ることは考えていない。

委員

それは建築コスト等の問題があるからか。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

建築コストというのも問題であるが、工期の問題もある。

委員

現在桃園小学校の校舎西側の3階建ての部分は、高さが何mあるのか教えてほしい。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

1階が3.5mとして3階分だと計算すると、およそ10.5mで、屋根の高さを考慮すると11m程だと思う。

委員

では4階建てにしたときの高さは何mで計算しているのか。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

3.5mの4階建てになるため、およそ14mで同じく屋根の高さを考慮すると14.5m程になる。

委員

西側の斜線制限が気になっている。14m超で斜線制限は大丈夫なのか。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

説明が不足していたが、北側に関しては、一部3階建てという形にしている。全部4階建てにしまうと、学校の敷地境界からもっと離れる必要がある。校庭の面積をできるだけ広くとるため、このような形になる。

委員

現状より校舎の高さが高くなると、西側に住んでいる方に圧迫感があると思う。住宅街にある学校なので、近隣の方に反感を買うような建て方はしないほうが良い。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

かなり学校敷地に近く、日当たりにも影響が出る場所なので配慮が必要であると思う。

委員

イメージ2は先ほども言われたように日当たりが悪いと思う。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

日照は、真南や上からも入るので心配いらないと思う。

委員

プールは屋上に配置することで決定しているのか。

事務局

基本的には校舎の上にプールを配置する。屋上にあれば、災害時の非常用の水としても使用できると考えている。

委員

現在は校庭にプールがあるが、水泳を行う夏場の3か月くらいの使用で、残りの時期は何にも使用していないのか。

委員

災害時の水としての用途はある。

委員

災害時以外、例えば、プールの水を利用した理科教育は行っていないのか。

委員

プール開きの前に、ヤゴを取ったりすることもある。

委員

都会のプールはビオトープとしての役割も考えられるため、屋上にプールを置く場合は校庭にビオトープのような施設が必要であると思う。都会の生物にとって学校施設というのは貴重な施設であるし、理科教育にも良いと思う。

委員長

プールを使用しない期間に何か有効的に利用できれば良いと思う。水を抜いて良いのであればスペースを活用して卓球等もできるのではないかな。災害用に水を貯めておくというのももちろん有効利用だと思う。

委員

イメージ2は校舎が2つに分かれているが、分かれていることで維持費は変わってくるのか。

雨の日の対策で何かしらつなぎが必要になると思う。コストの面と利便性の面について、イメージ1とイメージ2でどのように違うのかを説明してほしい。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

まずコスト面について、ランニングコストという考えは非常に新しい考え方で、実績として十分なものがないため、断言はできないが、個人的には別棟にしても大幅にコストが変わってくるということはないと考えている。別棟にしたからといって、延べ床面積等はほとんど変わらないためである。

次に、児童の動きを考えると、イメージ2では確かなにんらかの措置をする必要がある。校舎内の仮の配置の話をする、イメージ2の角の部分地域開放エリアと想定している。これは地域に開放するに当たってセキュリティの問題を一番に考えて、できるだけ外部の人が敷地内に入るスペースを減らしている。イメージ2はそういう制限がイメージ1よりもしやすいといった面もある。

委員

イメージ2は校庭に影ができてしまうのが問題であると思う。前任の学校でも、雪が降ったあとに日陰の部分は長い間雪が溶けずに氷になってしまっていた。

また、統合後しばらくは児童数が増えていくことが予想されるため、校庭や体育館での指導が難しくなる。小ホールのような部屋があると良いと思う。

屋上プールについては、前任校では東日本大震災の際に屋上のプールから水が漏れてきてしまった。そのようなことがないように工夫してほしい。

バリアフリーについては、向台小学校に車いすの児童が在籍している。前任校でも車いすの児童がいた。この場合、車椅子を各階に置いたり、教室移動の場合は抱えて行ったりと工夫していたが、校舎が4階建てとなるのなら、エレベーターを設置してもらいたい。例えば、地域の中にエレベーターが設置されている学校が何校かあれば、通学距離は少し長くなるかもしれないが、その学校に通えるし、選択肢が増えると思う。

地域開放型図書館やキッズ・プラザについては、地域と共有していく部分と、分離する部分をどういうふうにするのか配置図が入っている案があると意見を言いやすいので、次回はお願いたい。

委員

まずイメージ1について、既存の校舎に近い場所にあるので、なじみが良いと思う。ただし、校庭のトラックは校舎の前面に向けてトラックをつくってもらいたい。児童が整列しにくいし、教員の出入りを考えても、基本的には校舎棟の正面に作って欲しい。

イメージ2はよく工夫されていると思う。1点目は、校庭が正方形に近くとれていて使い勝手が良さそうなこと、また、先ほどから校庭の日当たりについて意見が出ているが、私は北側校庭という学校にいたこともあり、それに比べると問題ないと思う。日照に関しては、近年、運動会や練習時の日差しの強さや熱中症が問題となっていて、対策に苦慮していることから、日陰があることが有り難いという気持ちもある。そういった意味では、全く日陰になってしまうわけでも、全く日なたになってしまうわけでもないため、工夫されていると思う。2点目は、プールが屋上にあるというのも、これまでの学校では全く問題なかった。震災時の話があったが、造りによると思うので、しっかり設計してほしい。また、屋上にあっても、カモが遊びに来たり、植物を置いたり、その辺りは屋上緑化やビオトープ風のものも工夫によっては可能であると思う。

またイメージ2で一番良いのは、児童が使う門と開放用の門、搬入の門が別にある点である。それぞれの門を兼ねている学校にいた経験もあるが、毎朝とても気を使っていた。むしろ、搬入の門と開放用の門を一緒にして南側に置いてもいいと思う。児童の校舎と別になっているので、安全管理上とても良いと思う。

委員

セキュリティ面を考えると、門は分かれていたほうが良いので、イメージ2はそこが良いと思う。ただ、校舎内の明るさを考えると、東側にマンションがあるので、校舎棟の東側は日が当た

らない部分が多いと思う。

委員

やはり門は分かれていたほうがセキュリティ上良いし、地域開放型の場所として使いやすいと思う。日影だけではなく、最近は騒音の問題などもあり、近隣との関係についてはしっかり対応してほしい。

委員

今回2案あるが、一長一短があると感じている。イメージ2はセキュリティが確保できるが、イメージ1では児童数も増える上に外部から人を入れてしまうと、不安が残った。

心配なのが、災害が起こったときに、イメージ2はどういうふうに児童を誘導していくのか。それから、自衛隊の車両や普通より幅広の車両は入れるのか。同じく多くの人たちが避難をする場合には、校舎を通過して校庭に出るのか。東側から直接校庭に入る場所があるのかというところを不安に思っている。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

車両が校庭に入れる入り口は確保したい。またその入り口を開放して直接校庭に入れるようにもできると考えている。

委員

プールは屋上ということだが、屋外なのか。屋内なのか。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

屋根の無い状態で、屋外としている。

委員

屋外ということであれば、強風の時や、日差しが強い時に心配である。

委員長

青梅街道側には高層マンションがあるため、目隠し等も必要になる。

委員

イメージ1よりイメージ2が使い勝手が良いと思う。先に質問したが、例えば地下に体育館や図書室、給食室等が作れるのであれば、高さ制限の問題をクリアしてもっと校庭も広く取れると思うので、地下を作るコストがどれくらいなのか出してほしいと思う。

委員

両方比べて良いところ、悪いところがあると思う。その中でイメージ2の出入り口が分かっているところがとても良いと思う。

委員

平成31年で600人を超えて、平成34年で700人近くなる児童数の中で、その700人の児童がこの校庭と体育館で分かれて20分休みに遊ぶのを想像すると、やはり狭くて危険だと思う。私たちが小学生の頃は高学年が屋上で遊んだりしていた。今は屋上緑化に視点が変わっているのかもしれないが、遊びも学びだと思っているので、安全に遊べるような工夫をお願いしたい。

委員

縦割りの平面図、各階の配置がわからないとこれ以上の意見が出ないと思う。

事務局

次回はもう少し配置が分かるようなものを資料として出したいと思う。今日は校舎のボリュームと施設配置のイメージを掴んでほしい。

委員

それぞれに特色があったが、委員の意見のとおりだと思う。敷地の南側は、校庭と段差があるのでこの辺りに災害時の避難口などがあっても良いと思う。南にも門をつけておく必要があると感じている。

また、谷原小学校へ視察に行った際に屋上プールを見たが、屋外で日をいっぱい浴びて楽しそうにしていた。あれを見てから、屋上プールに賛成している。

委員長

校庭は直線でどのぐらいの距離がとれるのか。

パシフィックコンサルタンツ株式会社

イメージ1、2とも50mはとれる。斜めにとるともう少しとれると思う。

委員長

建物の配置については、今の形を継続したもののほうが近隣から反対が出にくいのではと思う。他に意見等はあるか。ないようであれば、議事を進める。事務局は本日の意見を踏まえて引き続き検討を進めて欲しい。

議事(2)その他

委員長

本日予定していた議題は以上で終了となる。何か発言等あるか。

事務局

統合委員会終了後、その協議内容等を記載した統合委員会ニュースを発行しているが、今回の協議内容が施設の話のみで、結論や方向性もまだはっきり出ていないので、次回の統合委員会終了後、第3・4合併号として発行したい。

委員長

統合委員会ニュースについて、事務局の提案で良いか。

一異議なし

委員長

それでは最後に次回の開催日程について、事務局の説明を求める。

事務局

11月30日水曜日に開催したい。

委員長

次回は11月30日水曜日でよろしいか。

一異議なし

事務局

弥生区民活動センターの部屋が借りられなかったため、桃園小学校か向台小学校の会議室で行いたい。

委員

校庭の広さや周辺も見たいので、桃園小学校で開催できないか。

委員

会議室を押さえておく。

委員長

それでは次回は桃園小学校で行う。時期が近付いたら開催通知を事務局から送付する。その他に何かあるか。ないようであれば、本日の統合委員会はこれをもって終了する。